



## 2024年度市場概要及びクルーズ事業計画

(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー

クルーズの概況

クルーズ推進の背景

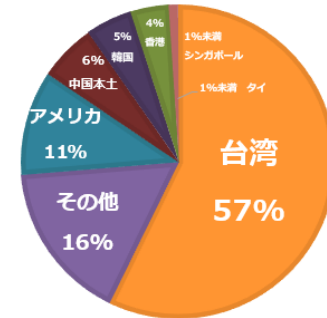
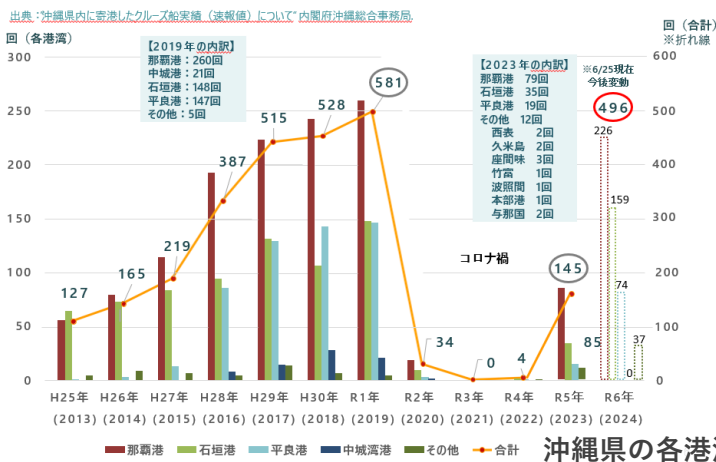
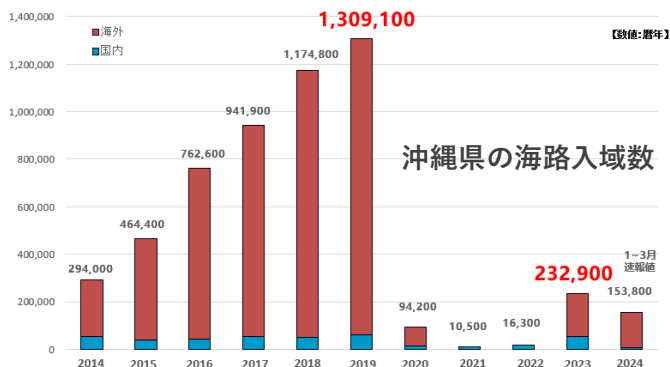
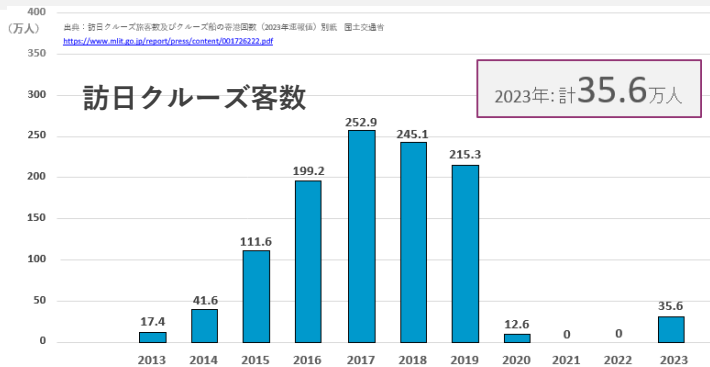
クルーズの事業計画 (令和6年度戦略的クルーズ観光推進事業)

事業者の皆様へのお知らせとお願い

# クルーズ概況

## ■クルーズ市場概況サマリ

- ・令和5年3月に国際クルーズ船再開
- ・訪日クルーズ客数は**35.6万人**(2023年) コロナ前ピーク水準(2017年)の**14%**まで回復
- ・沖縄県の海路入域数は**23.2万人**(2023年) コロナ前ピーク水準(2019年)の**17%**まで回復
- ・2023年の寄港数は沖縄全体で**145回**(那覇港79回、石垣港35回、平良港19回、その他12回)
- ・海路国別入域客数(乗組員を除く)は、**台湾が57%**
- ・国際船舶搭乗客単価 **21,734円**(2019年)
- ・2024年は**496回**のクルーズ船寄港を予定(2024年6月時点)



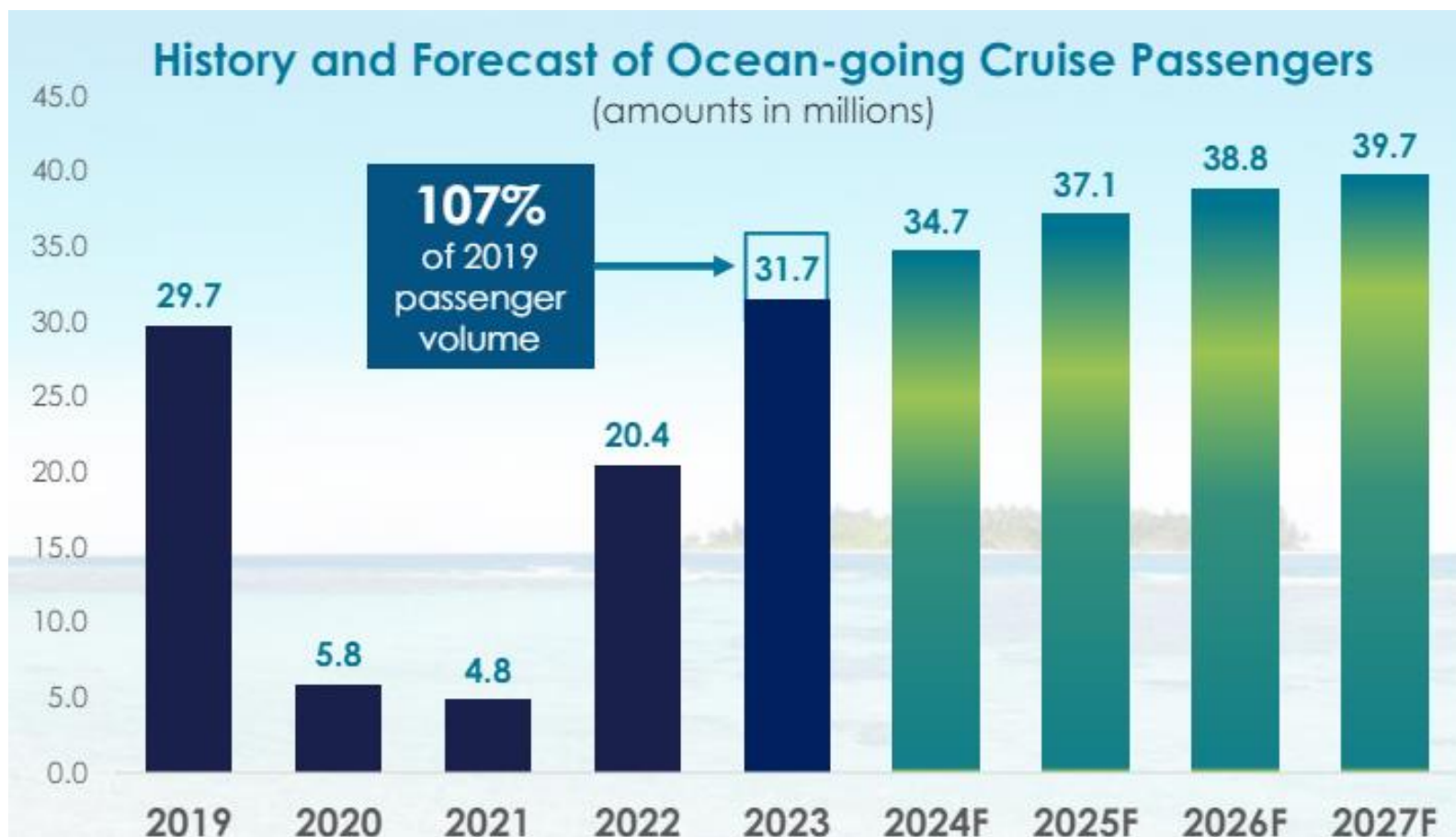
## ■市場概況から見えること

- ・沖縄県の海路入域客数の回復率は17%と低調
- ・2024年は中国クルーズの本格的な再開の見通し(寄港数の急速な回復)
- ・寄港地の偏りによる消費の固定化
- ・台湾発着クルーズの増加により、半数以上が台湾からの入域で、台湾発着は今後も予定。

# クルーズ概況

## ■クルーズ市場概況サマリ

- ・世界的なクルーズ市場が活況し回復と拡大の見込み
- ・一方で、受け入る地域によってはクルーズ船を制限するに動きも出始めている。



# クルーズ推進の背景

## なぜクルーズ観光を推進するのか？

・クルーズは、シニア層を顧客の主としていたところから、観光の多様化により家族連れや若い世代の関心も高まっており、世界的な市場拡大が見込まれている。その中で、沖縄県は「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」において「**質の高いクルーズ観光の推進**」を掲げており、**沖縄観光の付加価値を創出する方策**として展開を図ることとしている。

・多様化する観光ニーズに対応し、クルーズ船社、乗客、寄港を受入れる地域（住民・事業者）の三方よしとなる受入環境を整備するとともに、クルーズ観光を推進することによる**経済波及効果の創出**することで**持続可能な観光地の形成**につなげるため。



**沖縄21世紀ビジョン**  
(概ね2030年の沖縄の将来像)

20年  
計画

R4.5月策定

**新・沖縄21世紀ビジョン基本計画**

(世界から選ばれる持続可能な観光地の形成と沖縄観光の変革)

【クルーズ分野】質の高いクルーズ観光の推進

10年  
計画

R4.7月策定

**第6次 沖縄県観光振興基本計画**

(観光収入1.2兆円、のべ宿泊者数4,200万人泊、  
県民の幸せ感、観光事業者・観光客の満足度などの目標)

**各種施策・事業**

(戦略的クルーズ観光推進事業)

# クルーズ推進の背景

## なぜクルーズなのか？（受入メリット）

- ・近隣諸国との連携や国内の地域港湾との連携が不可欠なクルーズ観光の推進にとって、**沖縄県は地理的優位性**がある。
- ・クルーズは、移動手段ではなく、クルーズが旅の目的としても楽しまれていること、また、クルーズ船の種類、シーズン、発着地等により様々な顧客層が乗船するため、沖縄観光の**新規顧客の獲得**や**地域の分散化**につながる。
- ・滞在時間より、**費用対効果の高い観光消費**を創出するとともに地域インフラの負荷を短時間に収めることができる。
- ・乗客がもたらす観光消費のほか、水や食料、燃料等の**クルーズ船の需要による供給**があり、高い経済波及効果を見込める。
- ・クルーズ船寄港により港湾整備が進むことで、物流や人流の活性化となり地域の**まちづくりの起点**や**原動力**となる。
- ・沖縄観光の接点づくりとしてクルーズを活用することで、現地消費だけではなく、旅行後の消費活動に繋がり、**継続的な経済効果**を創出する。



## 事業の目的（令和6年度戦略的クルーズ観光推進事業）

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年3月以降、日本における国際クルーズの運航は停止していたが、令和4年11月15日にクルーズ船の関係業界団体によるガイドラインが策定・公表され、令和5年3月から、約3年ぶりに日本における国際クルーズ船の寄港が再開され、沖縄県内においても、令和5年3月8日に寄港し受け入れが再開された。

コロナ禍前は、アジアを中心とする世界のクルーズ市場の拡大に伴い、沖縄へのクルーズ船の寄港回数は日本最多、過去最高を記録したが、寄港地の偏り、訪問・消費先の固定化など、クルーズ寄港による地域経済波及が限定的であり、また、寄港回数の急激な増加により、寄港地の住環境への影響も懸念されるなどの課題もあった。

このため、クルーズ船の受入実績を重ね、受入体制の段階的な拡大に取り組みながら、寄港地の分散化、着地型観光を推進するほか、受入キャパシティに応じた小型船による離島周遊クルーズ、沖縄発着のフライ&クルーズの誘致・定着化など、クルーズ船寄港による経済効果の拡大を図る必要がある。

## 事業のテーマ

沖縄クルーズの **高付加価値化** と **受入強化**



## テーマ達成の要素

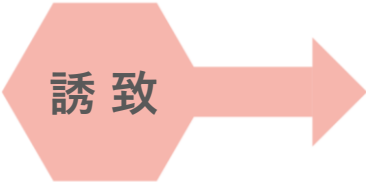


県内観光消費額のUP

満足度の向上

受入体制と連携強化

ラグジュアリー船やエクスペディション船等の経済波及効果の高いクルーズ船を誘致を図る他、各クルーズの特性に応じた付加価値の高い観光コンテンツを船社及び旅行社側へ発信することで、県内消費額の向上やクルーズ観光の満足度を高め、経済波及効果の拡大に繋げる。また、コロナ禍を経て、クルーズの本格再開に対する地元受入団体との受入体制の再構築を図り、新たな課題の解決やスムーズな受入と観光周遊を促進する環境を整備する。

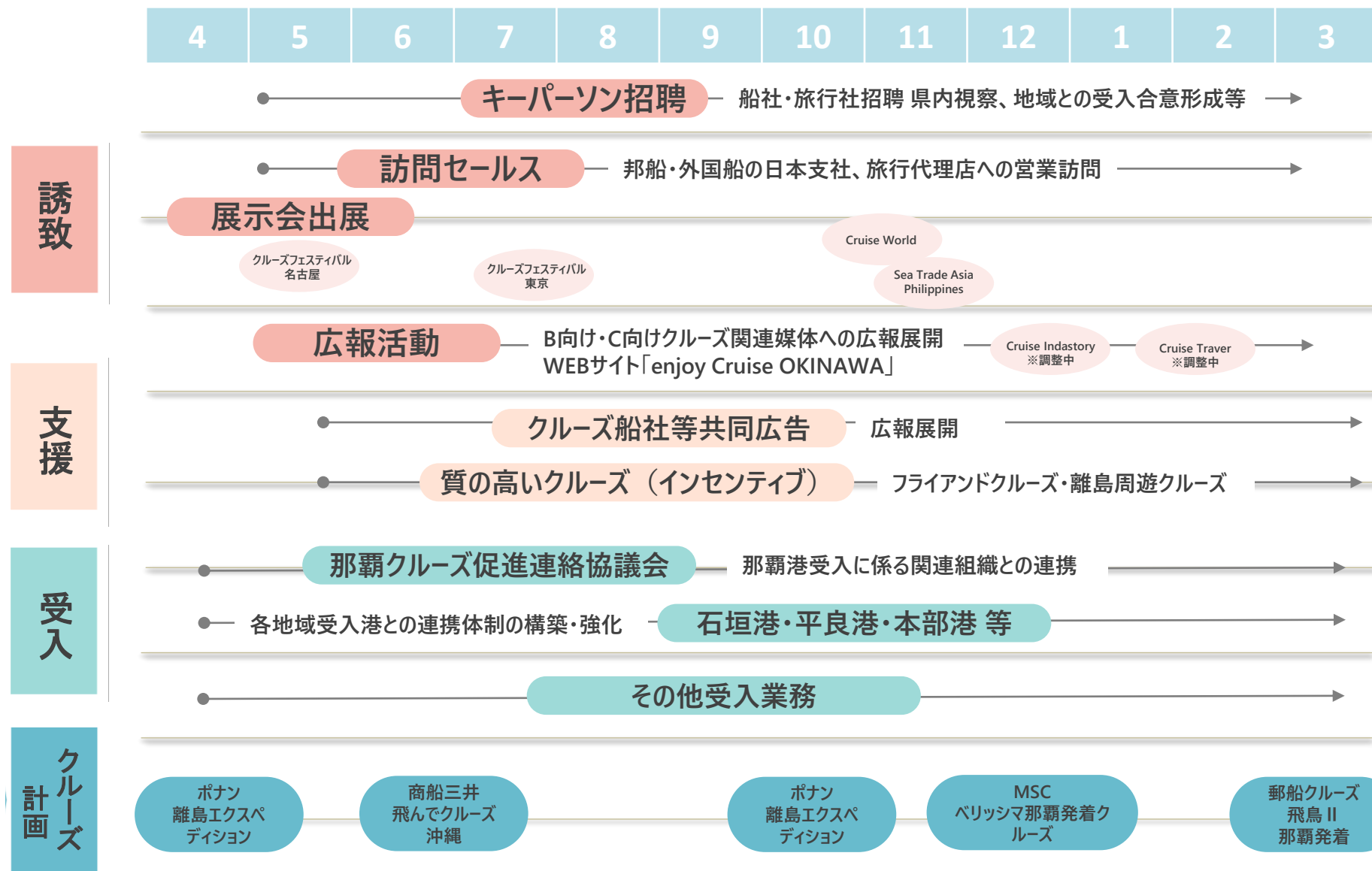
## クルーズの課題と取り組み

	課題	課題に対する取り組み
 <b>誘致</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 那覇・平良・石垣への寄港集中</li><li>● クルーズ入域客国籍の偏り</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● ラグジュアリー船（欧米系）の誘致</li><li>● エクスペディション船の誘致（離島周遊）</li><li>● 本部港・周辺離島などへの寄港分散化</li></ul>
 <b>経済波及</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 寄港地ツアーのコンテンツの偏り</li><li>● 滞在時間の短さ（平均8時間）</li><li>● 現地消費及び周遊の拡大</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● ランドオペレーターや県内事業者と協力したコンテンツ開発（体験型・周遊型）</li><li>● フライ&amp;クルーズの推進・定着化</li><li>● 船内での沖縄需要の喚起</li></ul>
 <b>受入</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 二次交通の利便性</li><li>● 地域住民の理解促進</li><li>● 地域受入団体の機能・運営</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● ウェブサイトを活用したクルーズ乗客向け寄港地情報の発信強化</li><li>● SNSを活用した地域向けの港周辺情報の発信強化（入港情報・バス等）</li><li>● 地元受入団体・港と連携した受入体制の強化</li></ul>





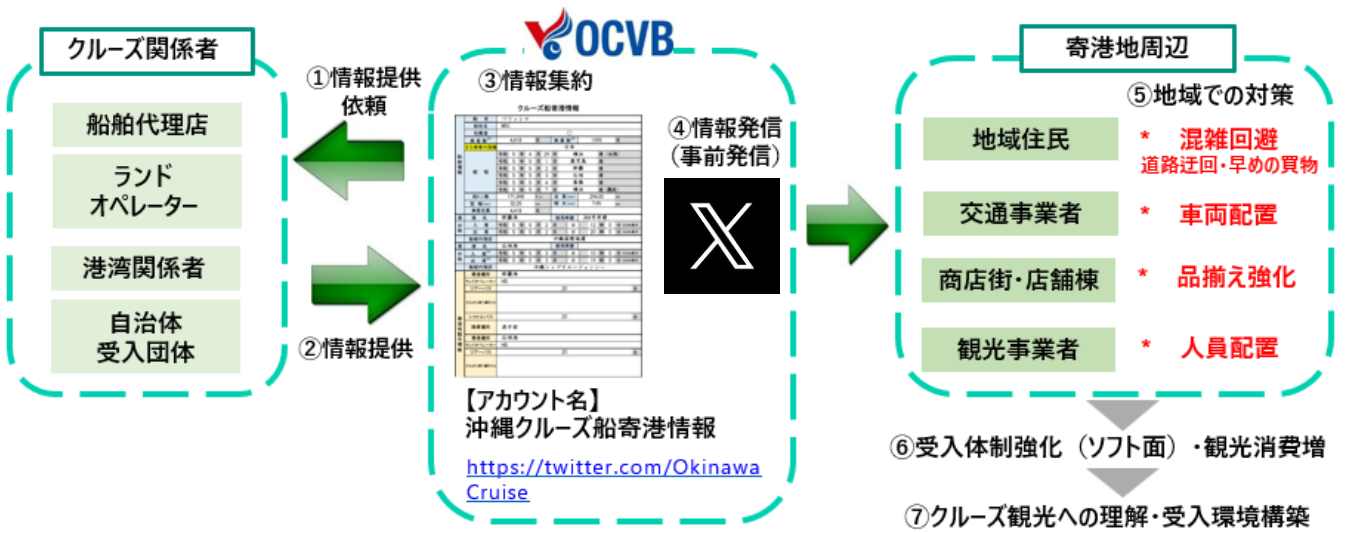
# 令和6年度 戦略的クルーズ観光推進事業 事業計画



# 事業者の皆様へのお知らせとお願い

## クルーズ船寄港情報 [X]

Xを活用して、集約した情報を事前に、寄港地周辺の住民、交通・観光事業者等へ発信することにより、受入地全体におけるソフト面での受入体制強化（クルーズ船寄港時における住民の混雑回避、タクシー配車、店頭での品揃えや人員配置等）を促し、クルーズ船寄港による持続可能な受入環境を整備する。



## 観光コンテンツの情報提供



キーパーソン招聘

展示会出展

# ENJOY! CRUISE OKINAWA

(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー  
海外・MICE事業部 海外プロモーション課

クルーズチーム



仲里 樹 (なかざと たつき)



平山 曜子 (ひらやま ようこ)



宮城 直明 (みやぎ なおあき)

TEL : 098 - 859 - 6127

Mail : [cruise@ocvb.or.jp](mailto:cruise@ocvb.or.jp)